

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2970500076
法人名	社会福祉法人 長生会
事業所名	桃寿園
所在地	奈良県橿原市北越智町345番地 (電話) 0744-27-7260
評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1
訪問調査日	平成20年4月30日

## 【情報提供票より】(20年4月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成12年12月11日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6.6 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	800 円
	夕食	600 円	おやつ	食事費に含む 円
	または1日当たり		1,600 円	

### (4) 利用者の概要(4月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	潮田病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

居住地域から少し離れた美しい自然環境に恵まれた所にあり、開設後8年目を経てホーム内も家庭的で落ち着いた雰囲気になっています。「ゆっくり、いっしょに、たのしく」をホーム独自の理念として職員全員が共有され、利用者間の会話も多く、利用者と職員と一緒にゆったりと過ごされています。地域から少し離れた所に立地していますが積極的に地域との交流に努め、民生委員をはじめ老人クラブとカラオケを通じて交流したり地域の催しに参加する等、地域住民からも温かく受け入れられています。また地域からホームに出向いてきてイベントをおこなったり、日常的な付き合いが深まってきています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の改善課題としては、地域とのかかわりが不十分などが挙げられていましたが、地域密着型サービスの意義の認識を深められ、地域との交流に積極的にかかわられることにより、地域の認知症に対する理解も深まり地域の一員として受け入れられつつあります。なお、終末期への対応に関しては、家族と共に早期より対応について話し合っておられますが、今後、対応指針について管理者、家族、職員、医療者との話し合いを深め、早急に全員の合意が得られることを望みます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が外部評価の意義を理解されており、前回の評価結果を参考に改善され、今回は職員全員で自己評価表を作成するなど、外部評価の意義をさらに深められています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2カ月に1回開催され、メンバーは家族、介護相談員等(支援センターを含む)、民生委員、市職員、施設長、管理者等で構成されています。会議ではホームの状況や取り組みについての報告や認知症の勉強会等行われています。メンバーからの要望で救急処置を予定されています。なお、運営推進会議のメンバーに自治会の会長又は役員の方を加えられ情報交換することにより、より一層地域との交流を深められることを期待します。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>請求書送付の際に利用者の生活状況や行事案内を同封されています。家族の訪問時に相談を受けたり行事毎の写真を掲示して見てもらうことにより話しやすい状況を作っておられます。介護相談員の訪問時の他、苦情担当者を明記した苦情相談窓口のポスターをホーム内に掲示されています。家族会も設けられ運営推進会議を通じてその意見が改善に反映されています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>老人クラブとの交流や地域のふれあい「光のプロムナード」に地域の方が施設に出向いてくる等、地域との交流に努められています。また、地域の小学校や幼稚園の催しにも参加されています。近くの高校生の受け入れも検討されており、地域との更なる交流を期待します。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスに移行後の意義や目的を理解されており、「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を一貫した揺るぎない理念とされています。		地域密着型サービスの意義や目的は理解されていますが、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援する内容を反映した理念の見直しを検討されることを期待します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念がホーム玄関の正面に大きな字で心温まる表現で掲示され、職員は、これを常に意識することで理念をよく理解し支援されています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人クラブとの交流や地域のふれあい「光のプロムナード」に地域の方が施設に出向いてくる等、地域との交流に努められています。また、地域の小学校や幼稚園の催しにも参加されています。		近くの高校生の受け入れも検討されており、地域との更なる交流を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が外部評価の意義を理解されており、前回の評価結果を参考に改善され、今回は職員全員で自己評価表を作成するなど、外部評価の意義をさらに深められています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催され、メンバーは家族、介護相談員等(支援センターを含む)、民生委員、市職員、施設長、管理者等で構成されています。会議ではホームの状況や取り組みについての報告や認知症の勉強会等行われています。メンバーからの要望で救急処置を予定されています。		運営推進会議のメンバーに自治会の会長又は役員の方を加えられ情報交換することにより、より一層地域との交流を深められることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員派遣事業を受け入れておられ、年2回その報告会に出席して市の職員や介護事業者との意見交換に努められています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の状況や相談を受け緊急時は電話で対応されています。毎月の請求書を送る際に近況報告や行事予定も同封されています。また近況の写真をホーム内に掲示し、家族の訪問時に普段の様子を伝えるようにされています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の訪問時の他、苦情担当者を明記した苦情相談窓口のポスターをホーム内に掲示されています。家族会も設けられ運営推進会議を通じてその意見が改善に反映されています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は異動や離職を必要最小限に抑える努力をされており、職員は馴染みの関係(疑似家族的)を大切にされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は段階に応じて計画的に研修の機会を持ち、参加していない職員にはその内容を伝えることとされています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護相談員派遣事業報告会に参加したのをきっかけに、介護事業者との見学交流を実施され実践における問題点等について意見交換をされています。		同業者(グループホーム)のみの交流会の必要性を行政に進言するなどサービスの質の向上に取り組んでおられますので、同業者ネットワークを結成するなど更なる活動を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前の面談で本人と家族と一緒に昼食あるいはおやつを食べながら利用の可能性について検討され決定後は約1週間で利用されますが、利用者がスムーズに新しい環境に馴染める機会が作られていないと思われれます。</p>		<p>事前に家族が利用者の荷物を搬入されていますが、その際に利用者も同伴し荷物の置き場所等共に相談しながら準備する等職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染める機会を工夫されることが望まれます。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、一緒に過ごしながらか料理や近所づきあい等を伝授されたり疑似家族の気持ちを大切に支援されています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の観察や家族の訪問時にそれぞれの利用者の思いや意向を把握しながら支援されています。意思伝達が困難な利用者の場合、気持ちや思いに寄り添う等して関わっておられます。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用時にアセスメントシートを用いて情報収集を行い、利用者の思いや家族の希望を把握して具体的な個性のある介護計画がたてられています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>原則として6か月に1回介護計画の見直しが行われていますが、体調に変化が生じたときは医療者と相談し計画変更が速やかに行われています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時など家族の事情や利用者の状態を考慮して、職員が同行する等柔軟な支援がなされています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談しかかりつけ医を最優先にしながら、かかりつけ医のない場合は協力医療機関と連絡をとり往診や定期健診等適切な医療が受けられるよう支援されています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	特に認知症の利用者は終末期を住み慣れた所で過ごすことの重要性を認識され、家族と早い段階から話をされていますが、終末期に対する対応方針について検討されている段階です。		医療関係者、職員、家族等、関係者全員で終末期に対する対応方針を定め共有されることが望まれます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライバシーに配慮した声かけや誘導がなされています。また個人情報の取り扱いに関しては継続的に研修がなされています。		個人情報保護の観点から、記録物の管理方法や表札の表示方法にも検討を加えられることを期待します。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れは設定されていますが、本人の状態や天候などを勘案しながら、買物、散歩、入浴時間や回数など本人の状態や希望に沿って柔軟に支援されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の利用者の嗜好を把握し、調理を工夫して提供されています。利用者と職員と一緒に準備、食事、後片付けをされ会話が弾んでいます。献立も利用者の希望を参考に、季節の物が使用されています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間の基本的な設定はされていますが、入浴回数や時間は本人の希望や状態により柔軟に支援されています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、草取り、調理や後片付け、歌を歌う、ドライブなど利用者の表情の輝きを観察しながら支援されています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候のよい日は散歩をしたり、週2回近くのスーパーに買い物に行くなど戸外に出かけるよう支援されています。また月1回老人会とのカラオケに公民館に出かけておられます。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は門扉も施錠されず、玄関の開閉は穏やかなメロデーで知らされ鍵をかけないケアが実践されています。また外出傾向のある利用者には見守り連携プレーがされています。		安全への配慮から、メロデーで知らせるようにされていますが、利用者を監視してしまうことにもつながりますので、利用者の自由な暮らしを支えるため、地域との連携やネットワークづくりの推進が期待されます。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震災害への避難訓練は年4回程度実施されており、食料等の備蓄は整備されていますが、地域の協力得られるまでには至っていません。		運営推進会議等を通じて地域の人々に避難訓練への参加を依頼する等して、地域の協力体制を確保されることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	フローシートを用いて一人ひとりの食事量、水分摂取量、排せつ回数が記録され、その日の状態を把握して支援に活かされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花が活けられ、食堂や台所から美しい自然景観がみられ、清潔で居心地のよい雰囲気保たれるよう工夫されています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台、仏壇、写真等を持参され好みのポスターや趣味で作った作品を飾り、一人ひとりの部屋が異なった雰囲気、居心地よく安心して過ごせるよう工夫されています。		